

## フィリピン国イリガ市における簡易 PPP 可能性調査報告書要旨

### 背景

東洋大学の PPP 研究センターとアジア PPP 研究所が事務局を務める国連 COE (UNECE International Specialist Centre of Excellence on PPPs in Local Government) 主催の会議が 2016 年 10 月に東京で開催され、フィリピンからミンダナオ、ブトワン市長を始め、ルソン島イリガ市の Ms. Madelaine Alfelor-Gazmen 市長も参加された。その際に、イリガ市の市長は A P P P I の活動に興味を持たれ、ブトワン市同様に APPPI のメンバーになることを決意された。メンバーになられたイリガ市に対し、APPPI に何の研究を委託したいかヒアリングし、市からは市が進めている 4 点の課題についての研究依頼が届いた。

APPPI は 2017 年 3 月にイリガ市を 3 月 9 日から 10 日にかけて訪問する機会を得た。教員 2 名とリサーチパートナー (PPP 大学院卒業生の研究員) 2 名で視察することができ、その際に、いただいていた 4 点のプロジェクトを視察し、この簡易報告書を作成するに至った。また、上記 4 プロジェクト以外に訪問最終日に大きなサプライズがあり、そのサプライズに関しても、ある提案をすることとなった。

### 訪問日程

日程：2017 年 3 月 9 日木曜日・10 日金曜日の 2 日間

内容：市長ほか市職員との面談、及び同市優先プロジェクトの予定地視察

#### ◇イリガ市優先プロジェクト 4 件

1. イリガ市環状道路整備計画
2. 上水道整備
3. 有機農業
4. 小水力発電事業

### イリガ市環状道路整備計画

現行の自治体計画では将来の都市開発 (土地利用) 計画や道路利用者の需要に対する配慮が欠如していることから、都市マスタープランの策定とそれに沿った道路計画策定の必要性を提案した。また車道幅・機能を用途に合わせて階層化することで大型車の進入を規制することも合わせて提示した。

### 上水道整備

雨水利用の促進とパイプ接続世帯の有収水量向上を提案し、雨水タンク設置の費用助成事例を紹介した。

### 有機農業

イリガ市が進めている農業センターの有効性に着目し、研究機能を自治体が持ち事業機能を民間セクターに任せるといった PPP の在り方を提案した。

### 小水力発電事業

現地の事業に対する理解が十分ではないため、事業を進めるために必要な技術的な分析や考察項目について提案した。

### その他

イリガ市にはチアリーディンググループの世界大会に進出できるほどに高度なダンスや歌のパフォーマンスを行なえる若者グループがあることから、これをエンターテインメント産業として成長させていく提案を行った。

これらの調査結果は 2017 年 5 月にイリガ市と共有し、第 2 回の現地調査を 2018 年 2 月に実施する方向で検討している。